

第三節 在留邦人現況

比律賓在留邦人現況

比律賓在留邦人現況 大正六年六月末現在内地人及臺灣籍民總數を示せば左表の通りである。

内地人	臺灣籍民		總計
	男	女	
ニラ附近	一、五七五	一、六三四	二、二〇九
ダバオ附近	二、七四六	二、七四六	五、四九二
其他比島各地	一、九一〇	一、九一〇	三、八二〇
米領グアム	一、三三一	一、三三一	二、六四二
計	六、三六二	六、四六二	一二、八二四

比律賓の地は米領であるから入國規則も嚴重で、近時殊に種々の障壁を設けて移民の渡航を禁ずるけれども、麻栽培の有望なものと土地が比較的近いのとで邦人の渡航を企てる者が多く、大正六年六月馬尼拉領事館の調査によれば現在の在留邦人は七、五五八人に達し、南洋各地中其の數に於て第一である。ミンダナオ東南に經營する邦人麻栽培會社の誘致で、毎航百人乃至五十人被備労働者の渡航あるため、其の數を増し、ダバオ附近にて現在約三千人と稱せられてゐる其の内主な者は大工で、バギオを中心として四方に散在し、其の技術が卓越せるので一般に評判が良く、現在千二百を下らない。之に次ぐのは雜貨商で、次が例の娘子軍若くは之等

を中心とする營業者である。現在娘子軍數は全島で二百七十名に達し、殊に近來ダバオ方面に其の數を増したが之は英領ホルチオ其の他の地から轉入した者と云ふことである。グアム島の二百餘名は即ち眞珠採取者潜水夫及是等を中心とする雜業者である。

所在地	名	種	營業者 又ハ主任	營業別	資本金
馬尼拉	田川	商店	田川森太郎	貿易及委託販賣業	未詳
同	山田	工場	山田俊明	硝子製造業	未詳
同	井原	株式會社	井原家吉	麻輸出及び栽培業	五萬
同	比律賓	拓殖合資會社	松岡富雄	椰子栽培業	三十萬
同	宮本	商店	宮本三之助	農業	未詳
同	中村	商店	中村清彦	眞珠採取業	同上
同	太田	株式會社	太田泰三郎	椰子栽培業	三十萬
同	古川	株式會社	古山義三	椰子栽培業	十萬
同	ソイ	株式會社	繁澤清助	麻栽培及び雜貨業	三萬
同	ミンダナオ	興業栽培株式會社	岡田孝太郎	麻椰子栽培及雜貨業	三萬
同	ミンダナオ	拓殖商業株式會社	金城松三	麻栽培及雜貨卸小賣業	二萬
同	カタルナレ	拓殖株式會社	上田亥之助	同	二萬
同	松岡	興業組合	松岡富雄	椰子、米栽培	三十五萬
同	神谷	忠雄	同	椰子栽培、牧畜、製氷	未詳
同	スル	眞珠採貝株式會社	太田泰三郎	眞珠採取業	十九萬九千
同	ホーランド	中村清次	中村清次	珈琲栽培	未詳

比律賓を旅行するのに英語を解する者は主な都會では差支はないが、地方に入ると西班牙語若くは土語(比律賓全島百數十種に達する)であるからガイド(案内者)を雇ふがよいけれども官許案内人がなければ馬尼ラ、マニラ、チャンツ、アツソシエーションか亦はトマス、クック、エンド、ソンに照會して英語を解する學生を雇ふが便利である。

第三章 ボルネオ

第一節 ボルネオ概況

位置及面積

位置及面積 比律賓群島の南方に在り、東はマカツサー海峡を隔て、セレベス島に對し、西北は南支那海に臨み、南は爪哇海を隔て、爪哇島と相望んでゐる。即ち東經百九度と百十九度の間に在り、赤道は殆んど其の中部を横斷してゐる。南北の長さ約七八〇哩(三一、二里)、東西約六八七哩(二七、五里)、面積二八七九三、七方哩(約四七、九〇方里)で世界第三の大島である。島の西南部凡そ三分の二は蘭領で、英領北ボルネオと稱するは北東部の三分の一である。

地勢 山脈は島の中央から放射狀を爲して射出し、概して山岳が多い島の北

地勢

東部に在るキナバル Kinabalu 山は高さ一萬三千七百呎、ボルネオ第一の高山である。河流は中央山地に發源して四方に流れ、何れも舟運の便がある。

カ・レ・ジ・ア・ン (Kalong) 河 は島の北部を西南西に流れ、英領に至つて南支那海に注いでゐる。平野を西に貫流し、支那海に流入してゐる。下流二四〇哩の間は小汽船を通することが出来る。から、蘭國政府經營の下に河汽船を通航してゐる。流域一帯は地味肥沃で胡椒や護謨栽培が

パ・リ・ト (Pari) 河 は中央山脈に發し、ボルネオの中央部を南に流れ、爪哇海に注いでゐる。延長五百哩、河口幅員約三哩で、河口から百五十哩までは吃水二十呎の小汽船の通行に適する。流域の茫々千里際涯なき沃野は太古其の儘の叢林地で、今後最も矚目すべき地であるが、近來邦人の此地に著目する者があるのは喜ぶべき事である。

マ・ハツ・カム (Makam) 河 は又クイチー河とも稱へる。タスサン、チヨラに發源し、東部ボルネオの曠野を東に流れ、マカツサー海峡に入る。流域には有名なるサンガサンガ産油坑を有し、其の他石炭、金等無限の富源を埋藏してゐるけれども、流域一帯の叢鬱たる處、女林はまだ斧鉞を加へられず、空しく寶庫を秘してゐる。河口に近くサマリンダ港がある。

フ・ラン・ガン (Bulungan) 河 は中央山脈に發源し、東流して、セレベス海に流入してゐる。

氣候 熱帶地として左して暑熱酷烈と云ふではない。氣温は海岸と内地とに依つて多少の相違はあるが、最高温度華氏九十三度、最低温度七十度で平均八十

氣候

度乃至九十度を普通とする。四季の變化がなく日出から日没まで殆んど気温に大差のないのは熱帯通有の現象である。けれども日没後は軟風が海洋から吹き來り日中の暑熱を一掃し頗る清涼である。一年を通じ比較的雨量の少いのは四五、六、八、九の五箇月で十月から一、二月頃は降雨が最も多い。三、四、五の三箇月は英領ボルネオ訪問の最好季節である。

蘭領ボルネオの方は赤道直下に位してゐるから炎暑劇しく最高温度華氏百一度最低七十一度平均九十度乃至九十五度の間を昇降してゐる。然し毎日乃至隔日午後二、三時頃に沛然たる驟雨があるから苦熱を一掃することが出来る。毎年十月から翌年三月までが雨季で、四月から九月までが乾季である。

衛生

北ボルネオは概して健康地と云ふべきではないが既に開拓後數年を経た都會地方では政府は銳意衛生的設備を施し不完全ながら山から引いた飲料水があり、又溝渠を施設し旺んに鑿井を奨励しつゝある。然し一步内地に歩み入るか海岸の開拓されざる地方に行つたら、マラリア、赤痢、脚氣、其の他の流行病が到る所に猖獗を極めてゐる。

産物

北ボルネオでは土壤が良好であるから熱帯農作物の生育しないもの

はない。殊に護謨栽培業が最も盛んである。之は主として西海岸特にゼッセルトン以西の鐵道沿線に旺んであるが、東部ではタソオ附近に最近久原護謨園、三菱

其の他二、三の小農園が著しく發展しつゝある。此の外に煙草椰子の栽培が盛んである。

鑛産としては石炭、石油の埋藏多きも其の探掘はまだ充分でない。久原鑛業會社は政府からボルネオの一部を除き各地の石油探掘權を得てサンダカンに事務所を置き各地に専門家を派して踏査せしめてゐる。

蘭領ボルネオの重なる産物はコブラ、コーバル、ダマール、ガムビール、サゴ、籐、野生ゴム、檳榔實、胡椒、材木、石炭(南岸地方)、石油(東海岸地方)、金剛石、金、銅、鐵等である。之等は主として海岸地方か河流沿岸の比較的交通便利な地方に發達してゐるので、一方内地に足を入るれば農業も鑛業も皆無と言つても過言ではない。之等内地地方には無限の富が包藏せられてゐるだらうけれども、まだ完全な地質學上の調査がなく、加之交通は甚だ不便である上、兇暴のダイヤ族が居住してゐるから發見が甚だ困難である。

第二節 英領北ボルネオ

第一 住民及政治

住 民 北ボルネオに於ける大正五年末豫想人口数は二十二萬千七百十七人(七一方哩)で内ボルネオ土人が四分の三を占めてゐる支那人は商人と多數の苦力とで三萬に達してゐる此の外馬來人は海岸商業漁業及内地(農業)に住し内地深くには食人種のダイヤ族が居住してゐる在來の土人は熱帯通有の懶惰であつて農園等の勞働に従事して居る者は支那人である

政 治 北ボルネオは北ボルネオ會社と云ふ一箇の營利會社が統治してゐる一八八一年資本金五百萬磅で政府特許の下に設立され本社は倫敦にある同重役會は即ち最高府である重役會は皇帝の勅許を経て北ボルネオに總督及司令長官一名を派遣して直接萬般の行政を司らしめる地方は五理事廳管區に分たれ各理事管區に一名の理事官がゐる其の下の地方官區の地方官は理事官の監督を受けて一般行政の外治安裁判をも司つてゐる

第二 主要都市

サンダカン (Sandakan) 北ボルネオの北東部サンダカン灣の北方灣口から四哩の地點に在るボルネオ第一の良港で北ボルネオの首府である該灣は長さ十五哩幅五哩水深四尋乃至八尋で能く五千噸の汽船を埠頭に横付けすることが出來

る總督は一年の半は當地に留まると稱してゐるけれども事實は大部分を其の西北海岸のゼツセルトンにて送つてゐる最近各種官衙をゼツセルトンに移轉させ首府を同地に移さんとしてゐる人口は約二萬大部分は支那人で比律賓人馬來人ブスン(馬來支那種)等順次之に次でゐる政府は北ボルネオ會社なる一種の營利會社であるから其の國庫收入増加策土地開拓上支那人足留策として賭博を公許してゐる

サンダカン在住日本人

近來英領北ボルネオ東海岸地方に邦人企業家が投資し椰子園を經營する者が多く又大阪商船會社南洋航路開始以來當地在住日本人が劇増した近時久原礦業會社外各北ボルネオ企業會社の事務所の開設を見追々智識階級の日本人の増加する傾向があるのは喜ぶべきことである現在在留日本人は約八十名である

タワオ 蘭領ボルネオ東北端に近くコウイ灣に臨んでゐる市街としては海岸

通りに一條の道路を挟んで支那人商舖が羅列するだけであるけれども其の近傍のモロタイ河流域一帯には久原礦業會社椰子園三菱椰子園其の他數箇の邦人椰子園がある又タワオ灣を溯江し蘭國國境のシリンボボンに豊富な炭坑があり其の貯炭所はタワオの反對側のセバチック島に在るから大阪商船會社や

其の他の外國船は載炭のため屢々入港する。大阪商船の南洋航路は一箇月に一回此地に寄港する。

ゼツセルトン (Zetsu Seltun) 英領北ボルネオ西北海岸に於ける唯一の良港で、廣濶なガヤ灣の奥に位し、水比較的深く二千噸の船を繫留することが出来る。市街は海岸に平行せる數條の街衢から成り、支那人の商舖が最も多い。國有鐵道はゼツセルトンに起り西南に向ひ北海岸の沃野を走りテノムに至つて終り、延長百三十哩である。沿線一帶に産出する椰子、護謨、セゴ等は鐵道でゼツセルトンに聚集し、更に輸出されるのである。英領北ボルネオ總督は一年の大半を此の地に滞在し、將來必ず政治上の中心となるであらう。人口八千五百人、支那人が其の大部を占めてゐる。在留邦人は三十九人、主な者は長野齒科醫、松尾雜貨店等である。

第三 北ボルネオに於ける邦人企業狀態

英領北ボルネオに於ける邦人企業狀態 英領北ボルネオの地は由來膏腴で諸種の天産物に富んでゐるけれども、經濟圏内を離れ、他國との船舶交通連絡が少いのも、勞働力の蒐集に大なる困難を感じる上、土地が健康に適してゐないから、從來之が富源開拓が閑却されてゐたのである。加之歐洲戰亂勃發と共に一層英

北ボルネオに於ける邦人企業狀態

ゼツセルトン

本國の投資を需めることが困難となつたから、豫て日本人の投資を歓迎せる政府は益之を慫慂し種々の特點を邦人に供與するやうになつた。其結果馬來半島を除いた他の南洋各地に比し、基礎ある企業者の投資簇出し、殊に大正五年久原鐵業會社がタワオに大農園を經營するやうになつてから著しく邦人資本家の注目する所となつた。

所在地	面積	主なる事業	企業者
タワオ	二二、六〇〇	椰子其他農林業	久原農場
タワオ	一、〇〇〇	椰子栽培	ホルネオ椰子栽培組合
ラハダツ	五〇〇	同	竹内吉次
キナバタンガン	一三〇	同	小杉
同	一〇〇	同	小澤
同	一〇、三〇〇	糖及蔗栽培	安藤保太郎
タンジョン、アレー	二一〇	椰子栽培	ホルネオ植産株式會社
同	二六	同	安谷喜代治
同	一〇	同	竹本達吾
同	一〇	同	田中護髓
ゼツセルトン	八〇	同	長野發
不	一五〇	護謨栽培	ホルネオ護謨株式會社
タワオ	同	同	小野田孝太郎及窪田仟米
			三菱椰子園

第三節 ブルネー王國

ブルネー王國は一八八八年英國の保護領となり、一九〇六年ブルネー王は行政權を新嘉坡政廳の派遣せる英國理事官に委託した。理事官は國王及其の重臣二名との決議で萬機を決裁するけれども、統治の實權は全然英人の手に在る。國王は毎年千四百磅、重臣は各七百磅を英政府から受けてゐる。

ブルネー王國の面積は四千方哩、人口は三萬人と稱せられてゐるが、何れも正確に分らぬ。ブルネー市街はブルネー河の水上に在り、家屋は木造でニツバ椰子の葉で屋根を葺き、總て水上に建ててあるから、満潮のときは浮き出て奇觀を呈すると云ふことである。國王の宮殿は一般家屋と違つた所はない、唯、屋根を亞鉛板で葺き、屋上に黄色の旗を掲揚してあるだけである。

ブルネー王國には在留邦人は一名もない。之は曾て熊本縣人の緒方モエなる者が此地で護謨園を計劃し、中途資本調達を名として此の地を去りたるまゝ歸來しない其のため同行した多數の人夫は大變困惑した。又緒方は出發の際土人から種々金品を借つたから土人等は緒方の不信を憤怒し、人夫の出發の際一層迷惑を與へたと云ふことである。此の事があつてから著しく土人の信用を墜し、日本人の行商人が往々此の地に來る者があつても土人から歡迎されない。従つて一人の在留者もないのである。

第四節 サラワク王國

サラワク國は英國の保護國でボルネオ島の西北部を占め、支那海に面してゐる。面積四萬二千方哩、人口約五十萬、馬來人、ダヤク、カヤン、ゲンヤ、ムルット人を主とし、支那人は全人口の三割を占め、歐人は僅かに百五十人に過ぎない。本邦人の在留する者七十名あり、クレーチン市はサラワク國の首府で、サラワクの西端サラワク河を湖ること二十三哩の地に在る。サラワク唯一の良港で、又附近物産の集散地である。土侯理事官居住し、政廳官衙はここに在る。人口は二萬と稱せられてゐる。

サラワクに於ける邦人企業家

所 在 地	面 積 (英段)	主 なる 事 業	企 業 者
サラワク國	二、〇〇〇	護謨其他栽培	鈴木本商店
同	三五	同上	同
同	一、〇〇〇	護謨栽培	米田奎太
同	一〇	同上	清水
同	一七	同上	福島

第四章 蘭領東印度

第一節 蘭領東印度概況

位置、面積、人口

位置面積人口。蘭領東印度と云ふのは馬來群島中和蘭に屬する大小多數の群島の總稱で、即ちスマトラ、爪哇及マズラ、蘭領ボルネオ、セレベス、蘭領ニューギニア、小スンダ諸島(モロッカ島からチモル島まで)、モロッカス諸島等を包括するものである。北緯六度から南緯十一度まで、東經九十五度から百四十一度までの間に碁布點在してゐる。總面積七三六、四〇〇方哩(我が本土の五十八倍)、人口約三千七百七十五萬人を算してゐる。

政治

政治。蘭領東印度には和蘭女皇の任命した一名の總督を置き、總督は女皇の名で一切の政治を行つてゐる。總督の諮問機關として印度評議會(副議長一名、評議員四名で、内二名は地方行政官、一名は裁判官、一名は中央政務官から任命する)、國民參議會(議員は少くとも三十九人で、土人、歐洲總督の任命で他の半數)の二機關がある。地方の政治は蘭領印度を三十七州に分割し、地方長官として知事、理事官、又は副理事官を各地に駐在させて行つてゐる。

産物

産物。蘭領東印度は熱帯に位してゐるから、生物の繁茂旺んで種々の農産がある。其の主なものと言へば低地には甘蔗、米、椰子、藍等、高地には珈琲、胡椒、煙草、幾那茶等を産する。殊に砂糖は蘭領東印度第一の主産物である。鑛産物としては錫、石炭、石油等である。就中石油は大正五年の産額一、六四三、五〇三噸に達し、蘭領東印度の砂糖に次ぐ重要産物である。

蘭領東印度在留邦人

蘭領東印度に分布する在留日本人は約三千七百人、其の内爪哇に九百人、スマトラに九百人、蘭領ボルネオに三百人、セレベスに二百人である。スマトラの九百人の内四百人は所謂娘子軍であるが、今日大部は外人のハウスキーパーで、其の他は賣藥行商、小規模雜貨店、洗濯屋、煎餅屋のやうな者が多く、從來知識階級の者少かつたが、最近南洋貿易の進捗と共に主要都市に日本人の大會社、銀行等の支店や出張所が置かれた結果、知識階級の人も増加し、多少日本人の勢力も認められて來た。臺灣銀行三井物産はバタビヤ、スマラン、スラバヤに夫々支店や出張所を有し、バタビヤには潮谷商會支店があり、スマランには小川洋行、南洋商會、スラバヤには有馬洋行、高橋商店、橋本兄弟商會、潮谷商會等があり、スマトラ島メダンには澁谷商會、バタンには東洋商會、大谷商會、セレベス島マカッサルに川原商會、稻垣商會等がある。之等は主として比較的功績のある雜貨商で南洋貿易に貢献する所影くないのである。

第二節 蘭領ボルネオ

第一 住民及政治

蘭領ボルネオは面積一萬四十九方里、人口百二十三萬四千(十一方哩)で其の概況は英領北ボルネオと同様である。政治は蘭領東印度總督に直隸する理事官が總督の名を以て行つてゐる。

第二 主要都市

バンジャルマシ(Baruzamasin) 蘭領第一の大河バリト河の支流マルタブラの右岸に在り、バリト河口より十八哩の所に在る。市街はバリト河に跨り川に平行して南北の廣袤約二哩である。東南ボルネオの首府で、和蘭理事官の駐在地である。バンジャルマシは此地附近の物産集散地にして又中部ボルネオ唯一の物貨吞吐港である。バリト河下流地方から金剛石を産する(今は産出が多くない。現下流地方である)市の人口約六萬、大部分は馬來人及爪哇人である。支那人は約三千、主に商業に従事してゐる。歐洲人二百六十、大部分は官吏や會社員である。在留邦人は二十人に過ぎない。

住民及政治

バンジャルマシ

バリクパパン

バリクパパン(Balikpapan) ボルネオ東岸唯一の良港で、灣内廣く水深六尋乃至十二尋に達するから大船巨舶を安全に碇泊させる事が出来る。バタビヤ石油會社の精油工場の所在地で、數棟の大工場が櫛比し、沿岸には四五千噸を包容する石油タンクが羅列してゐる。石油は東北方サンガサンガから導管で此の地に輸送し、工場で精製した上直接各國に輸出するのである。人口二千餘、主として石油會社の雇人や職工で支那人、馬來人、爪哇人等である。在留邦人は七十名、雪本商會(雜貨商)は其の主なものである。

第三 蘭領ボルネオに於ける邦人企業者一覽

所 在 地	面 積 (英段)	主なる事業	企 業 者
東南州 プロンガン	未詳	木材搬出	南洋木材株式會社
同 シゲタウ	四〇〇	椰子	正源司寛吾
同 ノンゲドヤ	五三〇餘町	胡椒護謨	南洋興農組合神保文治
同 ダナサラツク	三五〇英段	パラ護謨	大阪野村徳七氏經營
西部州 シンカラランダー	四三七	椰子護謨	渡邊竹次郎
同 スバボツ	三〇〇	護謨	元島作太郎
同 シンカワ	一五〇	椰子栽培	福永

第三節 セレベス

第一 概況

位置、面積、住民

位置・面積・住民 セレベス島は蘭領東印度中ニューギニア、ボルネオ、スマトラに次ぐ第四の大島である。島は北緯一度四十五分から南緯五度四十三分に延び、東經百十八度四十五分から百二十五度二十分に互り、西はマカッサル海峡を隔て、ボルネオ島に對し、東はモラツカ群島、ニューギニアに面し、南はフロレス海を越えてフロレス島及小スンダ島に、北はセレベス海を隔て、ミンダナオ島に對してゐる。面積は附屬島嶼を合せて七一、四一〇方哩即ち吾臺灣に五倍してゐる。人口は八五一、九〇五で一方哩十一人に過ぎない。島の全長南北四百七十哩、幅の最も廣い所百二十哩、狭い所三十六哩で海岸線の延長約三千哩に達してゐる。

地勢

地勢 本島は宛かも羅馬字のYに酷似して畸形を呈してゐる。中央山脈から分岐した四條の山脈は各半島の脊梁をなして、南にボニー灣、北にトミニー灣、東にトロ灣を構成してゐる。本島は北部ミナハサ地方ゴロンタロー附近及マカッサル附近の平地を除けば、大部分人烟稀疎である。島内には湖水多く之に發する

氣候

河川も多いけれども山脈が海岸に迫つてゐるから大河長流は少い。
氣候 は南北により著しき相違がある。南部即ちマカッサル及南部海岸一帯の地方では雨乾兩季の區分が稍、明瞭で、東南季節風の吹く六、七、八の三箇月間は乾燥季で、北西氣候風の吹く十二、一、二月の候は雨季である。北部地方トミニー灣沿岸地方は赤道に跨るのみならず、表裏兩面から吹き來る軟風のため降雨多く、且つ乾雨の區分も不明瞭である。南北兩地方は一般に氣温の大變化は少いが空気が乾燥し、山地で低濕地が少いから氣温平均八十五度乃至九十度を上下してゐる。他の爪哇、スマトラや新嘉坡に較べて健康地と目せられてゐる。殊に北部ミナハサは一帯に高原で氣温の差異が甚しく、平均温度七十八度乃至八十度で一日の氣温の差十七度以上であるから健康に適し、夜間就寢に際しては毛布の用意が必要と云ふことである。

第二 主要都市

マカッサル

マカッサル (Macassar) 本港は新嘉坡に次ぐ南洋交通上の要衝で、蘭領東印度諸島及遠く濠洲に航行する船舶は大抵此の港に寄港する。港の前面に四箇の珊瑚礁があつて風波を防ぐから港内波靜に且つ水深きを以て大船巨舶を碇泊させる

ことが出来る。此の地西にボルネオ、爪哇を擁し、東にニューギニア、南にスンダ諸島、遠く濠洲の寶庫を控へてゐるから、東部南洋の中心地たるのみならず新嘉坡以東唯一の貨物集散港として將來極めて有望の港である。人口三五、〇〇〇(内歐洲人一、二〇〇支那人六、〇〇〇土人二七五〇)で、支那人がマカッサル商業の實權を掌握してゐる。日本人の在留者は百五十人で、主な者は川原物産商會(高頼貝及木材)、稻垣合名會社(本邦雜貨輸入、コブラ)、櫻井藥房等である。

メナド(Menado) セレベス島の北東部にあり、メナド州の首府で理事官が駐在してゐる。人口一〇、三〇〇(内歐洲人三〇〇日本人六〇〇其他はミナハサ人二、八〇)で支那人がメナドの商業實權を掌握してゐる。當港はミナハサ山中地方に對する貨物の吞吐港で椰子、ダマル、高瀬貝、珈琲、コ、ア、米等を輸出する。在留邦人は山田雜貨店、南洋貿易メナド支店を除く外稱するに足るものがない。最近大谷光瑞伯は當地に椰子園を賣收し其の事務所を理事廳の前に置いてゐる。

ミナハサ國 ミナハサ國はセレベスの北方半島の北海岸マムランから南海岸トサトットに引いた一線以東の地の總稱で、東西六十哩、南北五十哩、人口二十萬に達してゐる。政治上何等國體を有つてゐるのではないが、他の馬來人と全然異つてゐる所があるからミナハサ國と稱へ

るのである。住民は元來アルプ、イル人種であるけれども、基督教の感化影響を受け全然馬來人種と別箇の種族のやうに進化してゐる。小學教育は七歳から十二歳まで義務教育で更に中學、師範、宗教學校、技藝學校等がある知識の點でも、徳義心の強い點でも、容貌の異なる點からも到底他の馬來人種と同一に取扱ふことは出来ない。容姿風俗は日本人に酷似し、家屋の構造、神殿造、墓碑の形狀も亦一致する所がある。其の地名品名等例へばメナド港、ゴロンタロー(五郎太郎キモン)著物等から推察して世人は彼等を日本人の後裔とし、彼等も亦之を確信して一般日本人に好感を有つてゐる事は同地方に旅行した日本人の等しく認むる所である。尙ほ特記すべきことは、ミナハサ人は蘭領東印度の官公吏、軍人、教師、傳導師、醫師の大部分は同人種で、和蘭がよ

第四節 爪哇

第一 爪哇概況

位置、面積、人口 爪哇は蘭領東印度諸島中最も良く開拓された島で、地味肥沃、無盡藏の農産物を有し、和蘭の大富源大寶庫と稱せられてゐる。島の位置は赤道の少しく南即ち南緯五度五十二分から同八度四十六分、東經百五度十一分から同百十四度三十三分に互り東西に細長く北は爪哇海を越えてボルネオに面し、西端は有名なスンダ海峽を挟んでスマトラ島の南端に對し、東端はバリ島に近

く、南は印度洋に面してゐる面積(マダガスカール島は五萬五千五百五十四方哩で、本邦の北海道四國に九州の半を合したものに略同様である。人口は蘭領東印度總人口三千八百萬の四分の三即ち三千十八萬人(内白人六萬五千支那人二十九萬六千、阿拉伯人で一方哩の人口密度六百人に達してゐる。)

地勢

地勢 一條の山脈東から西に走り南方海岸に偏し、之から數條の支脈が南北に分派してゐる。それで北部は一體に傾斜が緩であるが、南部は急勾配で直に海に迫つてゐる。山脈は總て火山性で活火山、休火山合して全島百三十餘座に達してゐる。本島は極めて大小の河川が多いけれども、山岳が多いから一般に急流である。それで交通に便利なものは少い。名高いのはソロ、レムバン、スラバヤの三州を貫流するソロ河(五、四〇〇)だけである。乾燥季を除いては河口から五、六十哩の上流まで四、五噸位の爪哇戎克の溯航が出来る。

氣候

氣候 氣温の高低は一年間通じて大差がないけれども、海岸に在る都市の氣温は普通日中八十七、八度である。山岳地方は一般に氣温低く日中六十八度内外である。

産業

産業 蘭領東印度中爪哇は最も地味肥沃で農産多く低地に米、藍、甘蔗、椰子、護

謨等の熱帶性植物一として産せざるなく、高地には幾那、茶、珈琲、胡椒、煙草等の産が多い。殊に砂糖は世界第一、珈琲は世界第二の産地である。鑛産としては石油、錫、石炭、鐵等を産する。

土地は殆んど官有地で西部に小面積の歐洲人及土人所有地がある。從來政府及土地所有者は強制労働制を施行して其の土民を一週間一日を定めて労働させたのであるが、千八百八十二年強制労働を廢し、其代りに一人につき年額一盾(我が約八十錢)の人頭税を課するやうになつた。然し、道路の修繕とか溝渠の開鑿とか道路用材の運搬其他公共的事業には現在尙ほ多少強制労働を施行してゐる。

第二 主要都市

バタビヤ

バタビヤ(Batavia) 本島の西北岸に位し蘭領東印度の政治の中心地で又爪哇の首府である。總督駐在し一年の大部分はバタビヤに居住する。都市としての一切の交通設備や體裁を具備してゐる。市は上下兩市に分れ、下市は舊バタビヤ市で嘗てジャガタラと稱へた所である。商業の中心地で支那人、阿拉伯人、其他の商舖軒を並べ、販賣を極めてゐる。殊にピントブサル街は外國人や日本人の主な會社銀行貿易商の在る所である。上市即ち新市街はウェルトフレードン(充分満)と稱し、爪哇のみならず、蘭領東印度の政治上の中心地で諸官衙會社銀行學校ホテル其他歐人住宅等

總て此地に在る。上市は宛も公園内に作られた市街の如く、土地高燥で健康に適し、萬般の衛生的設備も又行届いてゐる。人口は約十四萬と稱せられてゐる。我が領事館、日本郵船及大阪商船の代理店がある。又臺灣の南洋航路の寄港地で臺灣から包種茶を輸入する。

バタビア在留邦人の總數は百二十六名で邦人の會社商店等の主なものは臺灣銀行支店、潮谷商會支店、雜貨卸賣、達摩商會雜貨、島根商會雜貨、日蘭貿易商會支部賣藥、雜貨、小川洋行支店、雜貨、佐々木寫眞館、櫻寫眞館、日本旅館等である。

バイテンゾルグ

はバタビアから汽車行程一時間半ばかりの南方にある。海拔八百五十呎の高地で、總督の官邸がある。此地には世界に有名な植物園があつて、爪哇を旅行する者の見逃がせない所の一である。人口は三萬四千、氣候清爽最も健康に適してゐる。

バンドン

バンドン (Bandone)

ブレアング州の首府で、海拔二千三百呎の高原にあり、理事官が駐在してゐる。爪哇各都市中教育の最も普及した所で、土人歐化の風が顯著である。市の人口五萬(歐洲人二千五百、支那人四千、他は土人)、在留邦人は六十二名であるが、スマランの小川商行支店が主なものである。市より約十町の所に官營幾那製造所がある。爪哇第一の幾那栽培地と稱せらるゝのは町から三十五哩のマラバ山腹テンジロアン(海拔五千尺)にある。バンドンは要塞地帯になつてゐる。

スマラン

スマラン (Sumarand)

爪哇の略、中央北岸爪哇海に面し、爪哇三大貿易港の一でスマラン州の首府である。中央爪哇一帯の物産たる砂糖、珈琲、煙草、藍等は、一に本港から輸出され、需要品は本港から内地に輸入されるから貿易状態極めて活潑である。然し港灣が遠淺で汽船は遠く沖合に碇泊し、陸地との連絡は單に舢に依るの不便があるのは遺憾である。スマランは爪哇各都市中最も支那人の活躍する町で、バタビア、スラバヤ兩港が歐米貿易を主とするに反し、スマランは殆ど爪哇東洋貿易の中心と稱することが出来る。此の港は臺灣の南洋航路の寄港地である。此の地は支那人の豪商の多い所で、彼の建源や光盛、それから臺灣籍民の顔江守や郭春秧は其の尤なる者である。

在留邦人は總數百三十七名で、其の主な商店は三井物産會社出張所、小川商行賣藥雜貨、臺灣銀行スマラン出張所、南洋商會堤林氏美術雜貨直輸入業、潮谷商會同上、横山洋行同上、日蘭貿易會社出張所等である。

スラカルタ

スラカルタ (Surabaya)

本州の首府で人口十二萬、本島第三の都會である。本州の中部ソロ河に沿ひ、商業市としては特記するに足らないが、當市は昔時和蘭人が侵入しない以前の爪哇の政治的中心地として土侯スプーナンが全島に政令を發した所である。然し今は單に本州を自治するてう名目だけで、和蘭政府から毎

年八十萬盾の年金を受けて監督されてゐる。

在留邦人は約七十で主なものの中村洋行雜貨、南洋商會堤林氏第一第二支店である。

スラバヤ

スラバヤ(Surabaya) 東部爪哇スラバヤ州の首府でバタビアが政治的中心なる

に對し、スラバヤは實に爪哇の商業的中心地である。一衣帶水マダラ島に對し、爪哇一の大商港なるのみならず、又和蘭海軍の根據地である。人口約二十萬(内歐洲五千、支那人五萬、其の他はアラ伯人、爪哇人)を有し本島第一の都會である。一年間の出入船舶二百五十萬噸に達し、蘭領各島間の航行船舶は本港を起點又は終點とし、セレベス、ボルネオ、ニューギニア諸島に至り、更に新嘉坡、暹羅等に直航船の連絡がある。此の地は恰も我が國の門司と同様で背後に地味肥沃の砂糖大産地を控へ、内地の各重要都市との間には官私鐵道があるから、附近一帶の貨物はスラバヤから輸出され、又外國からの輸入品は本港から内地に輸入される。殊に砂糖輸出期には數十隻の船が河口に輻輳して眞に假賑を極めてゐる。

スラバヤ在留邦人は約三百名であるが近頃我が國人の大會社や商店の出張所が増加すると共に邦人も漸次増加しつつある。其の主なものには三井物産會社支店、臺灣銀行支店、南洋郵船會社出張所、南洋製糖會社出張所、岡崎商店、上田泰正、美術雜貨直輸入、有馬洋行直輸入業、潮谷商會支店、雜貨及貿易商、福島洋行雜貨卸商、高橋商店、東印度貿易會社輸出入商、橋本兄弟商會、雜貨、南

洋物産輸出入商、平松商會、船御用途物産委託販賣、永井洋行(淺野セメント、サク)、博愛醫院、市川氏、日本賣藥會社安田氏、ヨコ商會、時計商及修繕、ゴロキチ、バー(酒場、玉突等)である。

第三 爪哇土人の風俗習慣

衣服

衣服

男子の服装は年々歐洲人の感化を受けて變化し、中流以上では立襟前鈕の洋服を著、靴を穿くやうになつたけれども、大抵半股引を穿き、其の上に長さ六尺幅三四尺のサロンと稱する大幅更紗(西部バタビア附近では兩端を縫ひ圓筒狀にし、中部東部は長き布のまま、腰に巻く)を著る。外出の際は筒袖の上衣がメリヤスの襯衣を著し、頭にはカインカバラと稱する恰も我が國の風呂敷に似た更紗を巻き、酷暑の時は其の上に帽子を冠る。足は素足が多いが往々爪哇固有の革一枚に鼻緒をつけたものを穿くことがある。中部爪哇自治州では腰にクリスと稱する一刀を帯びてゐる。

女子の服装は下半身は男子と同様にサロンを著け、外出の時は肌衣の上にカバヤ(蘭語)と稱する薄布の筒袖上衣を著け、前部を安全ピンで止めてゐる。屋内では一般にサロンを胸高に著てゐるのみである。純爪哇人中部及東部在住は亞拉比亞婦人のやうにカバヤの代りに頭から風呂敷様の上衣を被るのが普通である。頭髮は後頭部で結束してゐる。足にはスリッパを穿いてゐるけれども中流以下は纏足である。更紗の模様色彩は地方によつて多少の相違があるけれども、一般に女は男に比し色彩の濃厚なのを好み、藍色、黄色を愛するやうである。

食物

食物

爪哇土人は大部分同々教であるから豚肉を食はない。米、野菜、果實等を常食とし、副食物は蔬菜、香料に山羊、水牛、其の他、魚肉を加へ、恰もライスカレーのやうなものである。香料としてはカレー粉、白胡椒、唐辛等のやうな極めて辛辣の強いものを好んで用ゆる。米は我が國のやうに

住居

住居

煮ないで蒸すのである食事の際は一家食物を盛つた器物を取り圍み芭蕉の葉に移した飯や菜を人差指及中指で巧に口に弾み込むのである。食事は起床後直に珈琲一碗を呑み業務に就き九時頃一食を喫し晝食は路傍の露店で間食を取り、夕方六時頃夕飯を食べる。此の露店は各種の珍味を販賣し、土人が其の周圍に踞りつゝ間食してゐるのである。此所の土人も他の南洋各地の土人と同様に檳榔の實に石灰其の他を混じたものを噛み口邊を赤くしてゐる。

土人の性質

土人の性質

土人中貴族又は相當地位のある者の家屋は歐洲人又は支那人の感化を受けて木造、石造煉瓦造であつて、之に又爪哇一流の彫刻を施してゐるものもあるけれども一般に竹造でニツパ椰子の葉で屋根を葺き、西部では床を高くして下に家畜を飼養するけれども中部東部は床は一般に低い家の周圍には大抵前面に廣い椽を拵へ、此所で客を應接し婦女子は手仕事をす。寢室は屋内を單に幕で仕切つただけで、床には普通竹を編んだもの又は藁や蘆を敷くのである。土人の性質 地方により夫々異つてゐるけれども一般に貯蓄心がなく所謂宵越の金は持たぬと云ふ缺點をもつてゐる。地方別に見れば西部パタビア方面の土民は馬來人の混血兒が多く人氣粗暴であるが、ブレアンガ州から漸次東方に行くに従つて温順勤勉である殊に外國人との接觸の少い地方の土人は素樸で友愛の情に富んでゐるけれども外國人の出入の激しい土地の土人は其の感化を受けて概して輕薄で虚榮心強く金を徒費して顧みない者が多い。

第五節

スマトラ

第一 概況

位置、面積、人口

位置、面積、人口

スマトラ島はマレイ群島中第二の大島で爪哇に殆ど四倍し、母

地勢

國和蘭に十四倍してゐる。位置赤道を中心とし南北兩半球に跨り、爪哇の北西に位し北はマラッカ海峽を隔て、馬來半島に對し西及北海岸は印度洋に面してゐる。島の延長南北一千哩、幅の最も廣き所二百三十哩に達し面積十六萬千方哩、人口四百九十八萬六千五百九十人、一方哩僅かに二十五人に過ぎない。

地勢 本島の西海岸に沿ひ所謂スマトラアルプスの稱あるバリソン山脈が北西から南東に島形に従つて全島を貫いてゐる。大部分噴火山で現在噴火しつゝあるもの十二座餘である。河川は主に東海岸に多く、地勢上又廣濶な平野を形成してゐる。

氣候

氣候

氣候 本島は赤道の南北各六度に跨り、且つ中央山脈が南北に連亘してゐるから、氣候は東西兩岸によつて夫々異つてゐる。然し概して五月乃至九月の頃は降雨が少く、十一月乃至三月は降雨が多く、爪哇に較べて雨量が多い。其の結果氣温も比較的低く爪哇に比し氣候の激變が少いから平均七十七度乃至八十三度の間を昇降してゐる。スマトラには特有の風土病は癩病を除けば他に特記する程のものはない。虎列刺の如きも南部及東海岸に外部から往々侵入することがあるけれども爪哇のやうに劇烈ではない。

第二 主要都市

パレムバン

パレムバン(Palembang) 島の南東部ムーン河口を溯ること七十五哩の地に位し、パレムバン州の首府で南部スマトラの一大貨物集散港である。此の地は古くから支那との交通があつたから支那人極めて多く、其の大部分は商業に従事してゐる。パレムバンから百五十基米の所にムーラ、エニムと云ふ油田がある。其の良質及産油額に於てボルネオのバリクババン、スマトラのバンカラヤ、プランドンと共に東洋有数の産油地である。

此地在留邦人数三百人、日本人會を組織し、邦人相互の親密を計つてゐる。現會長は登本氏雜貨店主、副會長山田氏齒科醫である。此の外に中村氏日本旅館、宮畑氏天和寫眞館、永池、島田兩雜貨店等がある。

メダン

メダン(Medan) 島の北西部、スマトラ東海岸州の首府で、デリ、舊土侯及總理事官の駐在地である。此地は有名なスマトラ煙草栽培地の中央に位し、スマトラ島第一の大都市である。もとは一寒村であつたが千八百六十九年にデリ煙草會社が創設されてから、今日の繁榮を見るに至つたのである。市街は宛も公園中に設けられたやうで街衢整然而も廣濶平坦で、兩側に植ゑられた並木は翁鬱として翠色滴らん許りであつて、此の文明的大都市がスマトラ島にあるのには誰も驚か

ぬ者はないと云ふことである。又スマトラ煙草の名も今日博く世界に知られ、上巻葉として最優良種と稱せらるゝに至つた。尙ほメダン市はデリ私設鐵道の中核で四通八達の要地を占め、附近一帯から遠くアサハン方面に對する物資の集散地である。殊に近來護謨栽培事業の勃興に連れ、内外資本家の投資するものが増加するから、メダン市は將來益々發展するに相違ない。

メダン市在留邦人は其の數に於てスマトラ島内各地に優り總數二百九十九名で、其の主なるのは次の通りである。

店名	營業者	營業種別	所在地	資本金	使用人	電話
澁谷商店	澁谷常五郎	美術雜貨、護謨園	ヒューテンパーク街	十二萬盾	二人	二二八
松崎商店	松崎虎之助	雜貨	同上	同上	八人	二七二
三木屋商店	樋口寅雄	雜貨	同上	二萬盾	五人	三六一
旭寫真館	樋田益雄	寫真業	同上	同上	四人	一七二
大和公同	八木見	雜貨	同上	二萬盾	四人	同上
戊辰商店	武内計太郎	藥種、化粧品	同上	同上	四人	四五〇
尾島農具機械販賣店	尾島作市	綿布雜貨卸賣	ケサラン路	二萬盾	三人	同上
原島農具機械販賣店	原島眞吉	器械及旅館營業	モスマケ街	七千盾	同上	三五二
神農藥房	吉田嘉一郎	齒科	ワイルヘルミナ街	同上	同上	同上
生本久三郎	同上	齒科	同上	同上	同上	同上

本	柴	藤	藤崎寫真館	藤崎市郎太	寫真原料品	ケサロン街	四人	二二六
田	田	十	助	次	和洋食料品雜貨	マスケ街		
					齒科	ウイデハマルト街		

第五章 英領海峽殖民地

海峽殖民地

海峽殖民地 (Strait Settlements) 海峽殖民地と云ふのは新嘉坡、彼南 (ウエルンステル) 及ティンデル

新嘉坡島

其行政權は新嘉坡駐在總督が掌握してゐる。附近の半島には錫採掘、護謨栽培最も盛で椰子、珈琲の産も少くない。殊に護謨栽培には本邦人も澤山従事してゐる。新嘉坡島 島は北緯一度、赤道を距る八十哩半島との距離十町餘の所にあり、長さ二十六哩、幅十四哩、面積二百六方哩 (三十四方里) に過ぎない。最爾たる島である。此の島は一八一九年英傑ラフス卿が印度總督ヘスチングに建白してジョホールサルタンから買収し、英國旗を掲揚したのである。

新嘉坡港

新嘉坡港 島の南岸に位し、氣候は酷熱であるけれども夏季は沛然たる降雨があつて之を和らげ健康に適してゐる。今新嘉坡が殷賑を極むる二三の主な理由

を擧げて見よう。

一、東西交通の要衝に當つてゐる。

新嘉坡は東西兩洋の鎖鑰を握り、南は近く蘭領東印度諸島、遠く濠洲を控へ、東にボルネオ、比律賓、日本支那が在り、西は印度等に圍繞され、此等各地よりの船舶は必ず新嘉坡を経由するから、同地は實に四通八達の要衝地である。

二、自然の良港である。

新嘉坡は西南に蘭領スマトラヤリオ群島が碁布點在して印度洋から來る荒濤を防ぎ、東の方面は馬來半島が支那海から來る暴風を遮るから港内は常に靜穩である。其の上又水が深いから如何なる大船巨舶も安全に碇泊することが出来る。

三、自由貿易港である。

本港は自由貿易港であるから、各國の船舶は許多の貨物を此の地に陸揚げし、機を見て支那其他の各地に輸出する所の仲繼貿易港で、一年の出入船舶は二千萬噸、其の貿易額七億圓に達してゐる。

新嘉坡は海峽殖民地政廳の所在地で、又各國領事館がある。住民は凡そ三十萬餘 (歐洲人六千、歐亞混血五千、支那人二十萬、馬來人三萬、印度人三萬、其他五千) を有してゐる。邦人の在留する者二、六八三人で南洋各都市中其の數に於て第一である。

新嘉坡には日本領事館の外に主な銀行會社、商店として臺灣銀行支店、三井物産會社支店、正金附録 第五章 英領海峽殖民地

銀行出張所、日本郵船支店、大阪商船支店、三菱支店、鈴木商店出張所、友田合資會社支店、醫藥工業品卸、小賣、越後屋、美服店、乙字商店支店、雜貨及南洋物產輸出入、増田貿易會社支店、潮谷商會支店、大和商會、雜貨、食料品、菅原公司、長井、嶺商店、新嘉坡支店、美術、雜貨、建築材料、丸下商店、雜貨、食料品、美服、日用品、日本賣藥會社支店、中野醫院、高瀬清、同仁藥房、鷺尾信一、等がある。

第六章 新占領地南洋

位置

新占領地南洋 は這般の大戦亂で我が海軍が占領した所即ち獨逸領のマリアナ群島、カロリナ群島、マーシャル群島の赤道以北に屬する部分である。位置は北緯二度五十五分から同二十度三十分に至る一千百餘哩、東經百三十度五十分から同百七十二度十分に至る約二千五餘哩の間に散布してゐる五百六十六の小島嶼である。

本邦と三群島との距離は横濱からマーシャル群島ヤルト島は最遠距離で二、四四四哩、同横濱からカロリン群島の西端アンケウル島まで一、七四六哩、同横濱からマリアナ群島サイパン島まで一、二五五哩で之が我が國と本群島間の最短距離である。

面積

面積 占領地の散布區域は甚だ廣大であるが、全面積は僅かに百六十三方里で、我が佐賀縣(一六〇方里)や沖繩縣(一五六方里)よりも稍、大きいに過ぎない。群島中の最大島はカロリン群島中のバラウ島で二十六方里、次はボナベ島の二十三

地質

方里、ヤップ島の十四方里等が大きい方である。

地質 マリアナ群島は我が富士火山系に屬する一帯の火山列島である。それで全島火山岩で形成され、北部には活火山が多いけれども南部地は火山が既に

久しく終熄して島上火山岩の高所に珊瑚礁の附著した所が見受けられる。カロリン群島は主要の大島は玄武岩から構成された火山島であるけれども其の他は珊瑚礁から成る小島である。又玄武岩から出來てゐるのでも第二期に屬する珊瑚礁に圍繞されて堡礁を成し鹹湖を形成してゐる所がある。マーシャル群島は各島とも海拔甚だ低くて、海面上に顯はるゝもの盡い。即ち珊瑚岩又は其の破片や砂礫が堆積して出來てゐる島の大きいものには椰子樹、麵包果樹等鬱蒼として茂つてゐるが小島には植物すら少いのがある。

氣候

氣候 土地が熱帶圏に在るから炎熱酷烈のやうに想像するけれども渺茫たる大洋に洗はれ、海風の調和と降雨の緩和とによつて所謂海洋性氣候を呈してゐる。雨量は何れも多い方であるが最も多いのはマーシャル群島で次はカロリン群島である。マリアナ群島には颶風の襲來が多いがカロリン群島、マーシャル

産業

群島にも往々襲來することがある。

●産業 南洋諸島に關し世人は單に國防上の根據たるに止まり、産業上殆ど價値なきものゝやうに思つてゐるけれども、**燐礦**はアンガウル島だけで三百萬噸、其の他フアイヌス及ピリリウ二島にも多量の産額がある。最近の内地輸出額六萬六千噸、價格四百萬圓に達したのである。コブラはマーシャル群島を主とし、輸出八千噸、百萬圓に昇り、甘薯や綿の如きも當分肥料を要せずして一年三四作に堪へ品質も良いのである。此の外麻、ロープ、砂糖、澱粉、煙草、石鹼等の製造工業があり、**海産物**としては高瀬貝、海鼠、眞珠、海綿の産が有望である。農牧水産凡て今後の發展を期待するに充分の天恵がある。

住民

●住民 最近の内地人は一二七〇人、外人は獨逸人九七人、米人二九人、英人二二人、支那人二〇を合し、總數二五一人、土人が四萬八千人である。天然の樂土として衣食に不足がないため、島民は労働を好まない。一日一圓四五十錢の勞銀で誘ふても應ずる者がない有様である。然るに耶蘇教宣教師の努力で今は殺伐の氣風、淫靡の俗を脱してゐるのは喜ぶべきことである。

政治

●政治 現在は司令部をカロリン群島中のトラック島に置いて軍政を布いて

ゐるが大正八年六月二十八日媾和條約で日本が三群島の委任統治國となつたが如何なる形式の統治をするか今の處不明である。けれどもやがて南洋廳を置かれると云ふことである。土人は一般に従來獨逸官吏の惡虐暴戾に苦んでゐたから、日本人の親切な待遇に感奮し非常に好感を抱いてゐる。

欠

欠

大正八年七月二十九日印刷
大正八年七月三十一日發行



定價金貳圓五拾錢

著者 廣松良臣

發行者 臺北古亭街七丁目十一番戶
臺灣圖書刊行會
代表者 吉川精馬

印刷者 小高育太郎

印刷所 臺北西門街四十七番戶
株式會社 臺灣日日新報社

發行所 臺北城南街四丁目九番戶
臺灣圖書刊行會

IF5046



終